

令和6年度参考資料 (生涯学習課、教育研究所)

<頁>

1	令和6年度スクールガード配置事業実施結果	1
2	令和6年度スクールガード配置事業アンケート集計結果	3
3	令和6年度学校支援事業実施結果	9
4	令和6年度「図書支援活動地域ボランティア研修会」実施結果	11
5	令和6年度学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業実施結果	14
6	地域学校協働活動に係る新聞記事	16

1 令和6年度スクールガード配置事業実施結果

令和6年度スクールガード配置事業実施結果

スクールガード配置状況一覧表（令和6年1月31日現在）

学校名	人数（人）		R 6 合計活動時間 （4月～1月分）	R 5 合計活動時間 （4月～1月分）	備考
	R 6	前年 度比			
盛小学校	4	—	206 時間 45 分	215 時間 15 分	1 人謝金辞退
大船渡小学校	4	—	1,231 時間 15 分	1,234 時間 00 分	
末崎小学校	1	▲ 2	75 時間 00 分	213 時間 30 分	
赤崎小学校	2	—	678 時間 30 分	674 時間 00 分	
猪川小学校	1	—	192 時間 45 分	183 時間 00 分	
立根小学校	2	—	650 時間 00 分	604 時間 30 分	
日頃市小学校	3	—	697 時間 45 分	591 時間 30 分	
大船渡北小学校	4	▲ 1	544 時間 00 分	750 時間 00 分	
綾里小学校	3	—	636 時間 45 分	593 時間 15 分	
越喜来小学校	0	—	—	—	
吉浜小学校	1 2	2	124 時間 30 分	182 時間 45 分	4 人謝金辞退
第一中学校	0	—	—	—	
大船渡中学校	3	—	153 時間 15 分	133 時間 45 分	10 月から活動開始
末崎中学校	0	—	—	—	
東朋中学校	0	—	—	—	
合 計	3 9	▲ 1	5,190 時間 30 分	5,375 時間 30 分	

スクールガード：11校に39人配置

- ① 引率型：盛小4人、大船渡小4人、末崎小1人、大船渡北小4人、綾里小3人、吉浜小12人
- ② 通学路巡回型：赤崎小1人、猪川小1人、立根小2人、日頃市小3人、大船渡中3人
- ③ スクールバス添乗型：赤崎小1人

スクールガード実施状況写真



- ▶ 大船渡小学校
引率型スクールガード



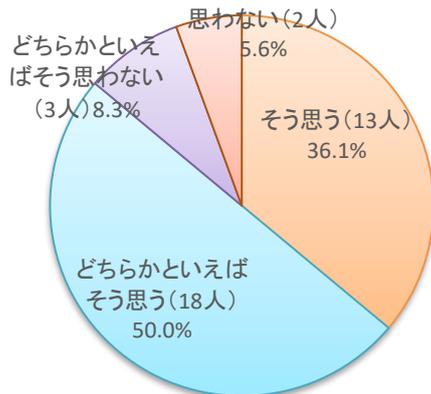
- ▶ 赤崎小学校
添乗型スクールガード

2 令和5年度スクールガード配置事業アンケート集計結果

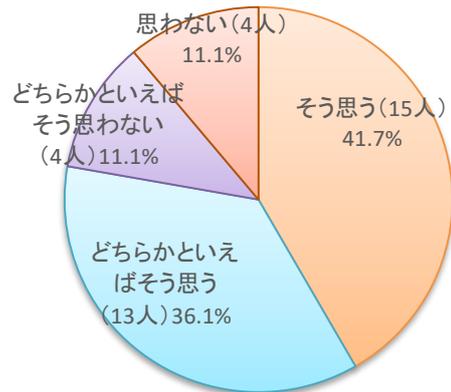
1 アンケート集計結果（スクールガード）

調査対象者：スクールガード（40人）
回収率：92.5%（37人）

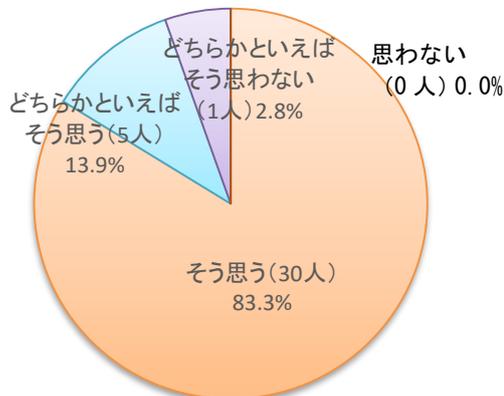
Q1 SG活動は生きがいや楽しみか



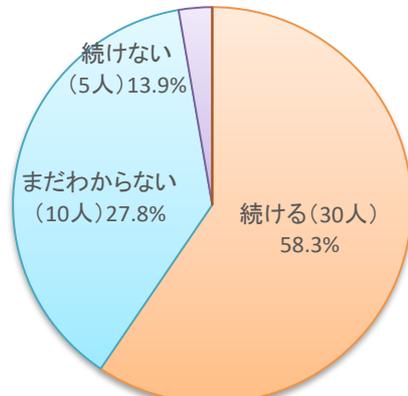
Q2 SG活動によって知り合いが増えたか



Q3 地域ぐるみでの活動は必要か



Q4 来年度以降もSG活動の継続を望むか



SG活動が生きがいや楽しみとなっていると答えた方が86.1%（昨年度89.2%）であり、自由記載においても、楽しみながら責任感をもって活動している様子が見える。

SGを「続ける」と答えた方は58.3%（昨年度59.5%）でおおむね例年どおりであり、人材の確保が今後の事業継続を左右する。

今年度、新規SG登録者は3人で、現役世代（新規SG登録者の平均年齢：47.0歳、その他SGの平均年齢：64.7歳）のSGを確保できた。今後も、地域住民や保護者等の幅広い参画を今後も求めていく必要がある。

Q 5 自由記載 抜粋

【あいさつについて】

- ・あいさつは上手に出来ていると思う。(盛小)
- ・一年を通して覇気がなかったり、単純な「おはようございます!!」の挨拶ができず、無口で通り過ぎて行く様子に残念な気持ちで見送る日もあったし、気になる子も結構多くおりました。(盛小)
- ・朝の元気なあいさつで、今日も健康だと感じます。(赤小)
- ・あいさつはまだまだできていない。(猪小)
- ・高学年になるとこちらからあいさつしなければ無視されることもあるので、できるだけ大きい声であいさつしようと思う。(日小)
- ・低学年は、色々な事を話してくれるし、あいさつも良くしてくれる。(日小)
- ・あいさつしなかった子が声かけによりあいさつするようになった。(北小)
- ・あいさつの出来る子、「明るい」友人思い、素直な子達なので注意しても、ハイと返事がかえって来ます!(北小)
- ・登下校中のあいさつが良くなった。(綾小)
- ・あいさつをしっかりと出来るようになってきた。(吉小)

【登下校の様子】

- ・まだ走ってしまう子どもがいます。先生から注意してもらおうとすぐやめます。でも、2~3日後にはまた走ります。(大小)
- ・個人個人やんちゃで走るなど言っても走るし、早く歩こうと言っても歩かない。(大小)
- ・子どもたちは班長さんを先頭に一列で歩いているが、列が乱れると班長さんに一喝されることがある。(末小)
- ・卒業や入学で、メンバーがかわっても上の学年が「危ない」と注意したり、目を配ってくれています。とても頼もしいです。(吉小)

【良かったこと】

- ・スクールガードの「おじいさん」なのに、子どもたちはスクールガードの「おじさん」と言ってくれる。頑張ろうと思う。(大小)
- ・私たち長年スクールガードを行い生徒たち下校時の見守り活動で巡回し気づいたこと、生徒たちが私たちの車をおぼえて手を振ってくれることです。(立小)
- ・学校以外であってもスクールガードさんだといって話しかけてくれる。(日小)
- ・子供たちからは毎日元気をもらっています。五年生の生徒たちから感謝のメッセージを頂き、とても嬉しく感動しました。(北小)
- ・子ども達の様子や変化などは伝わる。(吉小)
- ・引率時学校の様子などを教えてくれます。(吉小)

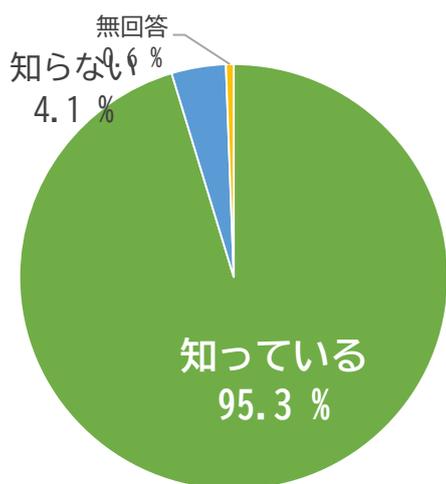
2 アンケート結果（スクールガード配置校の児童・生徒の保護者）

調査対象者：スクールガード配置校の児童・生徒の保護者（1,349人）

回収率：81.3%（1,097人/1,349人）

※ 1,097人は延べ人数のため、実質855家族からの回答

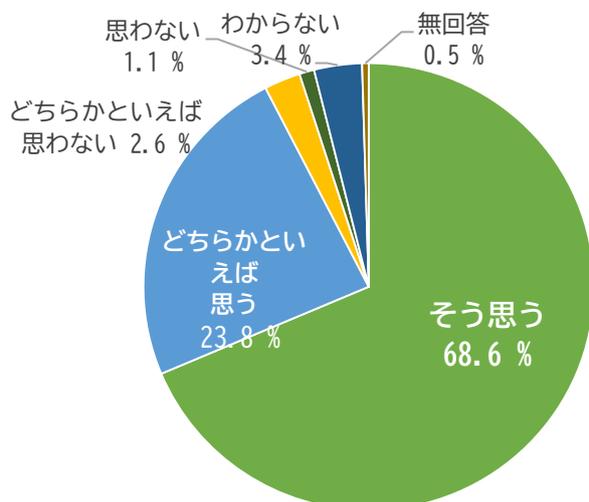
Q1 お子さんが通う学校にSGが配置されていることを知っているか



校名	知っている		知らない		無回答		計 人
	人	%	人	%	人	%	
盛小	71	100.0	0	0.0	0	0.0	71
大小	86	98.9	0	0.0	1	1.1	87
末小	91	95.8	4	4.2	0	0.0	95
赤小	48	84.2	9	15.8	0	0.0	57
猪小	161	97.0	3	1.8	2	1.2	166
立小	108	93.1	7	6.0	1	0.9	116
日小	33	100.0	0	0.0	0	0.0	33
北小	70	100.0	0	0.0	0	0.0	70
綾小	44	100.0	0	0.0	0	0.0	44
吉小	14	100.0	0	0.0	0	0.0	14
大中	89	87.3	12	11.8	1	1.0	102
計	815	95.3	35	4.1	5	0.6	855

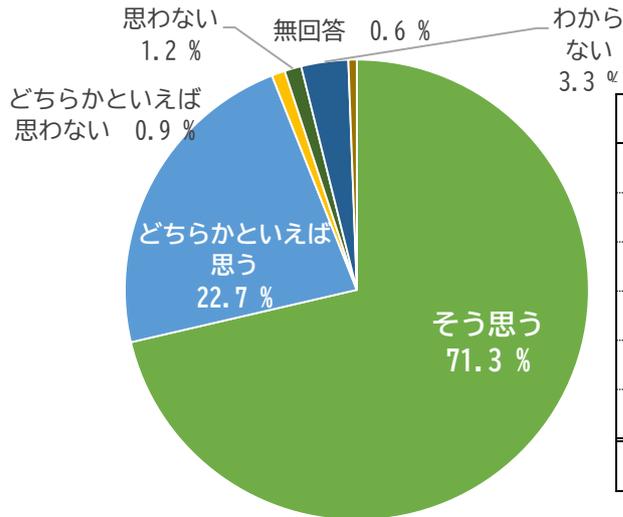
「知らない」と答えた保護者は、主に赤崎小学校と大船渡中学校である。赤崎小学校については、2人のスクールガードのうち1人がスクールバス添乗型であることから、保護者の目に触れにくいことが考えられる。大船渡中学校については、10月開始であることと、活動時間が部活動終了後の夜間であることで、目立ちにくいということが考えられる。

Q2 SGの配置により、登下校時の安全が保たれていると思うか



回答	人	%
そう思う	580	68.6
どちらかといえばそう思う	201	23.8
どちらかといえば思わない	22	2.6
思わない	9	1.1
わからない	29	3.4
無回答	4	0.5
計	845	100.0

Q3 SG活動の継続を希望するか



回答	人	%
そう思う	610	71.3
どちらかといえば思う	194	22.7
どちらかといえば思わない	8	0.9
思わない	10	1.2
わからない	28	3.3
無回答	5	0.6
計	855	100.0

回答者の94%（昨年度95%）が今後も事業継続を求めているが、地域ごとの児童・生徒の多寡により、SGの負担を心配する声や、緊急時に対応できる、若く体力のあるSGの増員を求める声が多かった。

「わからない」と回答した方は、Q1でSGの配置について認知しておらず、Q2で登下校の安全が確保できているか「わからない」と答えた方が多かった。

Q4 お子さんが通う学校で必要だと思うSG活動は何か（複数回答可）



「交通量の多い道での安全監視」が多く、どの学校でも、朝、通勤により交通量が多くなることや、通学路でスピードを出す車が気になるという声が多かった。

その他、「熊」、「登校班への付き添い」、「人目が少ない道の見守り」、「あいさつ習慣」、「地域交流」等を望む声があった。

回答	回答数	%	順位
交差点での安全監視	636	74.4	3
交通量の多い道での安全監視	698	81.6	1
不審者の見回り	646	75.6	2
通学路の点検	64	7.5	5
スクールバス乗降時の見守り	245	28.7	4
その他	22	2.6	6
回答総数	2,311	—	—

※ （回答数） / （回答人数 855 人）の割合

Q5 自由記載 抜粋

【良かったこと】

- ・ 天気が悪い日も、暑い日も寒い日も、毎日子どもたちのためにありがとうございます。子どもたちが安心して登下校できるのはスクールガードの方たちのおかげです。(盛小)
- ・ 家庭でもスクールガードの皆様の活動をきちんと子供達に伝え、この子供達が大きくなった時に自然と通学する子供達を見守れるよう、この文化が引き継がれていくよう指導していきたいと思います。(盛小)
- ・ 仕事などで毎日の登下校を親が見守れない場合もあるので、スクールガードさんの存在はとて有難いです。子供たちに優しく笑顔で接して下さっており、子どもたちとの関係も良好に思います。(大小)
- ・ 国道沿いを歩いている子にスクールガードの方が付き添っているのを見ると安心感があります。(大小)
- ・ スクールガードの方が見守って下さっている安心感、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。(末小)
- ・ 家族以外の大人と話すことも大切ですし、知っている方がついてくれるというのは大変助かります。(赤小)
- ・ 信号機のない横断歩道を渡るときに、子どもたちだけで渡るのは危ないので、そこに立って誘導してもらって大変助かっています。(赤小)
- ・ 私達が住んでいる地域では、害獣の目撃があるたび登校班が中止になって各家庭で送りますが、下校時は校庭を開放して下さるもののお迎えに行けないお家もあり、スクールガードさんがパトロールしていただいたので安心でした。また、保護者とも情報を共有出来て大変助かりました。(猪小)
- ・ スクールガードさんがいてくれるおかげで安心して安全に通学する事ができていると思います。親にとっても、子どもにとってもスクールガードさんはヒーローのような存在です。(猪小)
- ・ 下校時のスクールガードの車をよく見かけ、その度安心しています。大人の目はたくさんある方が安心できるので。いつもありがとうございます。(立小)
- ・ スクールガードさん毎日大変だと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。子どもが1人でもいる限り、なくしてはいけません。町の見守り隊として子どもだけでなく、お年寄りの多い町のために、これからもよろしく願います。(日小)
- ・ スクールガードの大切さや大変さを子供達に知ってもらうため、スクールガード体験など実施すると面白いのかなと思います。いつも子供達の安全のため活動して下さり、ありがとうございます。(北小)
- ・ スクールガードの方の見守りはとて有難いです。ぜひ継続してほしいです。スクールガードさんが通学路にいらっしゃるおかげで、不審者への抑止効果があると思います。(北小)
- ・ 横断歩道など子供達だけだと不安な場所も安心して歩かせる事が出来るので、これからもスクールガードの方がいてくれると心強いです。(綾小)

- ・スクールガードのみなさんがいることで、運転中の大人だけでなく、登下校中の子供たちも交通安全への意識が高まると思います。また、通学路に人が存在することで不審者への抑止力につながると思います。とても大変な活動だと思いますが、継続していただきたいです。(大中)
- ・冬場は暗くなるのも早く、学校の周りは特に暗いので、校門のところで子供達の下校を見守って下さり、感謝しています。(大中)

【要望】

- ・スクールガードの方がいるところまでの間が空き過ぎる時があるようなのでそこは気掛かりな部分ではあります。(盛小)
- ・春になるとまた不審情報も出てくるので、人通りの少ない道は特に子供たちの安全を見守って頂けると助かると思います。(盛小)
- ・スクールガードは下校時ですが、登校時はやらないのですか？朝は交通量が多いのでやった方が助かりますが…。(大小)
- ・一部の子どものそばしか歩いていないので、全体的に見守りできているのか疑問です。(末小)
- ・朝、交通量が多い県道38号について、場所によっては歩道もなく危険なので、毎日ついていくか安全な場所まで送っています。ロータリーだけに集中させず、各登校経路の危険箇所を学校側でも把握していただけると助かります。(末小)
- ・スクールガードの大半がお年よりで、万一何かあった時(熊との遭遇+災害など)に対応しきれぬか不安です。(赤小)
- ・もちろん毎日が無理なのは分かりますが、もう少し活動していただける日が増えてもらえたら、子どもたちの安心できる日が増えるかなと思います。(猪小)
- ・もう少し若い方がやってもよさそう。(猪小)
- ・車に乗って安全確認ではなく、交差点・危ない箇所等で安全も確認をしてほしいです。(立小)
- ・スクールガードさんのおかげで、安全に学校に行けているとは思いますが、年齢を考えると少し不安があるかなと思います。(日小)
- ・信号待ちの場所より信号がない車から死角になる交差点にスクールガードさんが欲しいと思いました。(北小)
- ・スクールガードの方がこちらの地区は1人しかおらず、すごく負担をかけていると思います。(吉小)
- ・小学生にはスクールガードさんが居てくれると安心だと思いますが、中学生になるとあまり必要ないかと思います。スクールガードさんに手間をとらせているのでは？と、申し訳なく思います。(大中)

2 令和6年度学校支援事業実施結果

令和6年度学校支援事業実施結果

地域コーディネーター配置状況一覧表（令和6年1月31日現在）

学校名	人数（人）		R 6 合計活動時間 （4～1月分）	R 5 合計活動時間 （4～1月分）	備考
	R 6	前年 度比			
盛小学校	1	—	0時間00分	18時間00分	
大船渡小学校	1	—	2時間00分	18時間00分	
末崎小学校	1	—	2時間00分	3時間30分	
赤崎小学校	1	—	41時間15分	10時間00分	
猪川小学校	1	1	4時間00分	—	
立根小学校	1	—	5時間00分	5時間45分	
日頃市小学校	1	—	12時間15分	25時間15分	
大船渡北小学校	1	—	28時間15分	6時間00分	
綾里小学校	1	—	3時間00分	2時間00分	
越喜来小学校	1	—	18時間30分	19時間45分	
吉浜小学校	1	—	0時間00分	1時間00分	
第一中学校	0	—	—	—	
大船渡中学校	1	1	0時間00分	—	7月から新たに配置
末崎中学校	0	—	—	—	
東朋中学校	1	—	0時間00分	4時間00分	
生涯学習課	1	—	11時間15分	13時間00分	
合 計	14	2	127時間30分	126時間15分	

※ 複数校を兼務する地域コーディネーターがいるため、総数と異なる。

※ 地域コーディネーター登録者数：11人

地域ボランティア配置状況一覧表【令和6年1月31日現在】

学校名	図書支援 人数（人）		金管支援 人数（人）		R 6 合計活動時間 （4～1月分）	R 5 合計活動時間 （4～1月分）	備考
	R 6	前年 度比	R 6	前年 度比			
盛小学校	2	1	2	—	267 時間 30 分	87 時間 00 分	2 人謝金辞退
大船渡小学校	2	—	0	—	33 時間 30 分	23 時間 30 分	
末崎小学校	0	—	0	—	—	—	
赤崎小学校	2	—	0	—	168 時間 30 分	97 時間 45 分	
猪川小学校	4	—	0	—	300 時間 15 分	269 時間 00 分	
立根小学校	2	—	0	—	204 時間 30 分	192 時間 30 分	
日頃市小学校	2	—	0	—	33 時間 30 分	14 時間 00 分	9 月から活動開始
大船渡北小学校	4	—	0	—	714 時間 45 分	520 時間 15 分	
綾里小学校	3	—	0	—	514 時間 15 分	446 時間 00 分	
越喜来小学校	2	—	0	—	166 時間 00 分	134 時間 45 分	
吉浜小学校	1	—	0	—	99 時間 00 分	91 時間 15 分	
第一中学校	3	▲ 1	0	—	70 時間 00 分	240 時間 45 分	
大船渡中学校	4	—	0	—	219 時間 00 分	301 時間 00 分	
末崎中学校	3	—	0	—	142 時間 15 分	251 時間 30 分	
東朋中学校	2	—	0	—	68 時間 00 分	42 時間 30 分	
合 計	3 6	—	2	—	3,001 時間 00 分	2,711 時間 45 分	

※ 複数校を兼務するボランティアがいるため、総数と異なる。

※ 地域ボランティア登録者数：18 人

令和6年度大船渡市学校支援事業
「図書支援活動地域ボランティア研修会」実施結果

日時	令和6年11月27日(水) 午前9時～11時
場所	大船渡市立日頃市小学校 図書室
テーマ	図書館は楽しい場所～地域ボランティアができること～
講師	大船渡市立図書館 司書 中井 佳織 氏
参加者	図書支援活動地域ボランティア：10人 図書担当教諭：1人

1 趣 旨

大船渡市の地域学校協働本部事業実施にあたり、図書支援活動地域ボランティアが専門知識を学ぶことにより、学校支援活動の充実を図る。

2 内 容

(1) 講演及び実演（演題：「学校図書館の役割とは？」）

- ・研修に当たり、講習を希望する内容を確認する事前アンケートで、希望が最も多かったものを演題に設定
- ・学校図書館法について、簡単な座学
- ・図書室の規模、設備、児童・生徒数はどの学校も違う。あり方の正解は1つではない
- ・チェックシートで、各配置校の現状の把握 等



(2) 情報交流

日頃の「業務内容」、「業務の課題」、「解決策」について、ボランティア同士で話した。ベテランのボランティアが、自分の持つ知見を発信することで、他のボランティアが自分の配置校で実践できるという前向きな声が多かった。

実際に配架を体感するために、実践として、古典・漢詩、ミステリーに関連した本を10分程で探した。

「きれいに配架されている！」
 「この本の分類は別の場所でもいいかも？」
 「子どもが読みたい本と先生が読ませたい本は違う…」 etc.

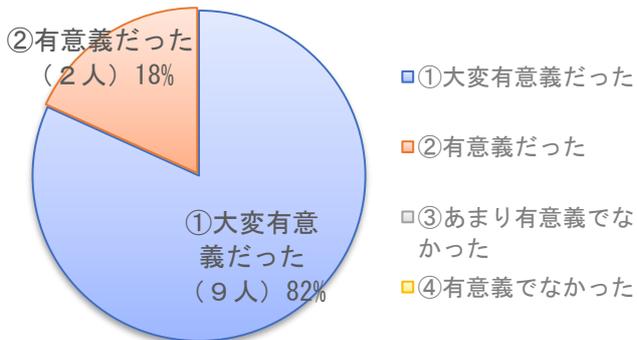


図書システムの活用方法について
 研修中・・・

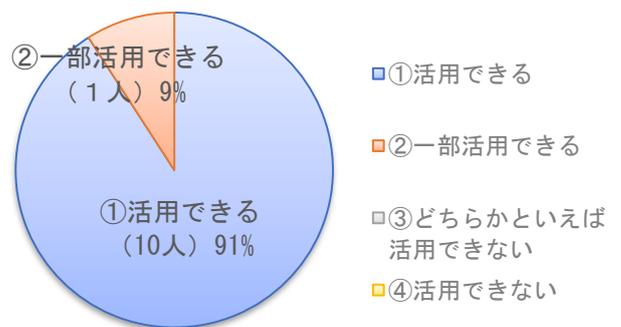
3 アンケート結果

調査対象者：研修会参加者（11人）
 回収率：100.0%（11人）

Q1 研修会の評価



Q2 研修会の内容は、活用できるか



昨年の研修会に引き続き、情報交流の時間を多めに割いたことで、より参加者同士での各学校の状況等の情報共有が図られた。

研修会に参加した全員が、「大変有意義であった」、「有意義であった」、「今後の活動に活用できる」、「一部活用できる」と回答した。

会場を、実際に各ボランティアが活動している学校図書館としているが、「お互いの活動場所を見学できる良い機会」と、非常に好評である。

Q 3 研修会への意見や感想（自由記載）※一部抜粋

- ・ 実際に本を探してみて、本の整理、分類が大切なことを再確認できた。
- ・ 分類、配置、システムの活用などによって利用者への提供がいかに便利にできるか実感した。
- ・ 図書担当教諭との交流が大切であると感じる。
- ・ 学校の図書館指導年間計画や、行事を見据えた活動の大切さを感じた。
- ・ (特設) コーナーの設置などのアドバイスもいただきたい。
- ・ 各校の実態を聞きながら意見交換ができ、大変有意義だった。研修時間をもっと多めにしてほしい。

Q 4 研修会の内容に限らず、意見等（自由記載）※一部抜粋

- ・ 日頃市小図書館の雰囲気（配架、机の配置等）がとても良いと思った。
- ・ 子どもたちが楽しく、より多く利用できるようこれからも頑張りたい。
- ・ 今後もボランティア同士の意見、実践、悩みなど交流ができるとうれしい。
- ・ 次回は違う学校の図書室を見せていただけるとうれしい。
- ・ 作者の名前順に並べると探しやすく、改めてその重要性を感じた。

令和6年度学校運営協議会と地域学校協働活動の推進状況

1 学校運営協議会の設置・運営

【実績】今年度開催した学校運営協議会の回数（3月5日現在）

No.	学校名	開催回数	No.	学校名	開催回数
1	盛小学校	3	9	綾里小学校	3
2	大船渡小学校	4	10	越喜来小学校	3
3	末崎小学校	2	11	吉浜小学校	2
4	赤崎小学校	3	12	第一中学校	2
5	猪川小学校	2	13	大船渡中学校	3
6	立根小学校	3	14	末崎中学校	2
7	日頃市小学校	3	15	東朋中学校	2
8	大船渡北小学校	4		市内15校	41

2 学校運営協議会において熟議の開催

【実績】今年度開催した熟議の回数（3月5日現在）

学校名	熟議回数	熟議テーマ
盛小学校	1	地区・地域と連携した教育活動について
大船渡小学校	3	子どもたちに伝えたい地域の宝 今年度の実践と今後の見通しについて 地域の方々との連携による教育活動の支援について
末崎小学校	2	末崎の子どもたちに育てたい力、教育振興運動の取組について 地域との連携について
赤崎小学校	1	まなびフェストから見える学校課題とその改善に向けた取組について
猪川小学校	2	学校経営方針と今年度の教育活動について 本校児童のよさと今後の課題について
立根小学校	2	立根町の子どもたちの自己肯定感を高めるために、私たちにできることは
日頃市小学校	2	家庭・地域での挨拶や会話について 来年度の学校づくりについて
大船渡北小学校	2	学校教育活動における地域人材の活用について 学校と地域が連携したまちづくりについて
綾里小学校	1	防災教育を推進するために必要なことは
吉浜小学校	1	次年度に向けて【地域との協働】
第一中学校	1	地域と中学校の関わり 実施可能な協働の機会確認
大船渡中学校	1	郷土を愛し支える人材育成に向けて

3 熟議の事例

(1) 綾里小学校第2回学校運営協議会の熟議について

テーマ「防災教育を推進するために必要なことは」

○1学期末アンケートの結果から、「防災教育をもっと推進した方がよい。」という意見を受けて、このテーマを設定。

主な感想・意見は下記のとおり。

- ・現在、登下校中に地震や津波が来たときにどのようにするか、学校として決めているか、それを保護者は知っているか、子ども達は知っているか、それらを消防団が共有できれば、子ども達の安全確保ができたり、保護者が迎えに行ったりできるのではないか。
- ・避難訓練、引き渡し訓練も地域と協働で行うことが必要。

(2) 大船渡中学校第2回学校運営協議会の熟議について

テーマ「郷土を愛し支える人材育成に向けて

～生徒に学んでほしい、大船渡の人、もの、こと～

○協議会委員以外の教職員も参加しての熟議を実施。主な感想・意見は下記のとおり。

- ・大船渡の魅力を再認識できた。
- ・来年度より新設統合する末崎中地区の特色やよさにも気付くことができた。
- ・地域のよさを知ることから、郷土への誇りを持ち、郷土を支える生徒の育成に繋がっていくことが改めて大切である。

4 令和6年度のまとめ

【成果】

- ・今年度も全小中学校が2回以上学校運営協議会を開催することができた。
- ・2回開催の学校は、年度当初に学校経営方針を確認し、年度末に評価について具体的に意見交流ができた学校が多くあった。
- ・3回開催の学校は、2回目に熟議を取り入れている場合が多く、1回目終了後から2回目開催までに見てきた学校の課題や、今後に向けて自分たちができることについて熟議している様子が見られた。
- ・多くの学校では前年度から継続している地域と連携した活動を行うことができた。熟議をとおして自分の地域や学校について考え直したり、新しく地域と連携した活動を考えたりする学校も見られた。
- ・地域学校協働活動の協力内容と名簿を資料に位置付け、活用につなげやすくしている学校も見られるようになってきている。

【課題】

- ・学校運営協議会委員の委嘱、協議会への参加など、持続可能な協議会、地域と連携した活動の在り方に課題がある。

自然と生物の保全学ぶ

浦浜川で「川の楽校」

越喜来小

大船渡市三陸町の越喜来小学校（鹿糠康校長、児童69人）による体験学習「川の楽校」は27日、同町越喜来の浦浜川で開かれた。1、2年生24人が浦浜川にすみ生物を観察し、地元の自然や生物の保全について学んだ。

川の楽校は、海や川と触れ合うことで、自然環境を大切にする気持ちや郷土愛を育もうと、約20年前から行っている。講師に、北里大学海洋生命科学部の朝日田卓教授、同大学大学院生、県と市から同学部出身の職員を招いた。

児童らは、浦浜川の河口付近で水辺の生物の採捕に挑戦。網を使い、ウキゴリなどのハゼ類、スジエビ、モクスガニなどを捕まえた。大物を見つけ声を上げたり、講師らに名前や生態を確認したりと、地域にすみ生物に親しんだ。

朝日田教授によると、浦浜川は東日本大震災や水門

工事などの影響で一時はすみ生物が変わったものの、現在はもとに戻っているという。

児童らはその後、生物を水槽に移して観察。この日



浦浜川で採捕した生物を観察する児童ら（電子新聞に別写真あり）

は成長途中のウナギが見つかったことから、朝日田教授はウナギの減少と採捕の禁止について説明し、児童らも魚類を取り巻く問題に理解を深めていた。
畑野結詞さん（2年）は「川で遊んだことはあまりなかった。捕まえるのは難しかったけど、7匹くらいとれた」と話した。

R6.8.28 東海新報

秋の味覚親子で堪能

赤崎小
5年生 サンマのすり身汁作る

大船渡



親子が協力してサンマのすり身汁を調理した
(電子新聞に別写真あり)

大船渡市立赤崎小学校(高室敬校長、児童117人)の5年生22人とその保護者は19日、親子行事「サンマのすり身汁作り」を行った。地元の水揚げされた

サンマを親子で協力して調理し、秋の味覚を堪能した。

同校では、旧蛸ノ浦小時代に行われていた「海づくり少年団」の活動を引き継ぎ、漁業に対する理解と関心を高めるとともに、自然の恵みに感謝する心を育てようと、新巻きザケ作り体験を行ってきた。令和3年度から5年生の親子行事として実施していたが、本年度はサケの不漁により中止。これに代わる行事として、サンマのすり身汁作りを企画した。サンマは、同町蛸ノ浦の鎌田水産(株)が提供。50匹が寄せられた。

すり身汁作りの前には、

オリエンテーションを実施。県大船渡水産振興センターの伊藤満さん、市水産課の葉澤芳行さんが、サンマの生態や同市のサンマ漁、サンマを生かしたまちづくりについて講話し、知識を深める機会とした。

すり身汁作りには、市漁協赤崎支所の熊澤聖紀さん、県大船渡水産振興センター、市水産課の職員らが立ち会い、活動を見守ったほか、地域コーディネーターの金野洋子さんと地域ボランティアが講師を務め、調理をサポートした。

親子らは、サンマを3枚におろす作業から調理を開始。児童らは、けがに注意を払って包丁を使い、サンマの身を細かく切った。たたき、すり身状にするまでの工程を丁寧になした。すり身が完成すると、鍋に豆腐、野菜とともに投入し、味付けを行った。金野さんや保護者の経験と知識に助けられながら、慎重に調味料を足していき、満足のいく味に仕上がったのを確認すると顔をほころばせた。

志田鴻舵(すわた)さん(5年)は「身を細かく刻むのが楽しかった。すり鉢で身を混ぜるのは大変だった」と話していた。

R6.11.20 東海新報

由来と継承の歴史知る

大船渡北小3年生

赤澤鎧剣舞の学習会

大船渡市立大船渡北小学校（金野晋校長、児童102人）の3年生22人は27日、地元の大船渡町で受け継がれている郷土芸能・赤澤鎧剣舞に関する授業を受けた。児童らが、剣舞が踊られるようになった経緯や、伝統芸能の保存、継承に力を注ぐ住民らの熱意に触れた。

同校では、4～6年生が赤澤鎧剣舞の稽古に励み、運動会などで披露するのが恒例となっており、その事前学習として毎年度3年生が剣舞についての授業を受け、身近な郷土芸能に対する知識と理解を深めている。

同日は、赤澤鎧剣舞と曲祿の保存、継承に取り組む赤澤芸能保存会の平山徹会長（80）と富澤慎一指導部長（80）が同校を訪れ、剣舞の起源や同校の先輩たちが踊り継いできた歴史などを紹介。源平合戦で敗れた

平家の霊を高僧が鎮めた故事に由来し、江戸時代末期頃から始まったとされ、一時途絶えたが明治に入って中興、昭和46年から保存会として継承してきた経緯を伝えた。

演舞の際に踊り手たちが身につける鎧や面、腰に着ける「尻伽」、太刀、扇子

などの装束に込められた意味も説明したほか、同校の運動会で昭和60年から赤澤鎧剣舞が披露されてきたことや、平成25年に創設された同校郷土芸能部、同保存会の小中高生らで構成する「唐獅子会」の活動も紹介。稽古を記録した写真を見た児童らは、先輩たちが踊る姿に、来年度から演舞に加わるイメージを膨らませた様子だった。



大船渡北小の3年生に赤澤鎧剣舞の歴史などを伝える平山会長と富澤指導部長（電子新聞に別写真あり）

このあと、装束や面の着用体験も行われ、児童らが着心地などを確かめた。面を着けると「視界が見えづらい」、鎧を着ても「意外と動ける」といった感想を述べ、こうした装束でステーションをこなす踊り手たちの苦労も感じ取った。

平山会長は「ここでは、先輩が後輩に踊りを教える伝統もあり、装束などに触れて少し興味がわいたのではないか。やりたい人はぜひ稽古に加わって一緒に活動してもらいたい」と話した。

3年生は今年の冬休みの課題として、オリジナルの尻伽を製作し、来年度の活動に備える。村上昂汰さんは「鎧が重いことを知り、尻伽がかっこいいと思った。剣舞を早くやってみたいし、稽古をして家族に見せたい」と意気込んでいた。

R6.11.28 東海新報

正しい食事について学ぶ

大船渡中
食育講話
残食ゼロに向けた意識も新た

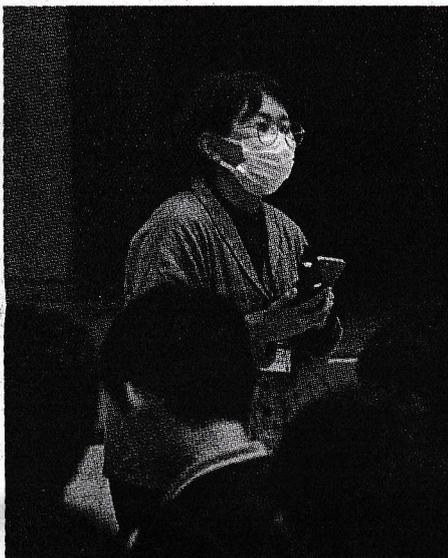
大船渡

大船渡市立根町の市立第一中学校（村上貴彦校長、生徒403人）で4日、食育講話が開かれた。生徒らが、正しい食生活についてさまざまな角度から学びを深め、学校全体で残食を減らしていく意識も新たに

した。

家庭教育学級の一環で開催。北部学校給食センターの菅原亜希子さんがパフォーマンスを上げる食事のポイント▽お弁当づくりのコツ▽コンビニなどで買うときは？—の3項目について講話した。

冒頭、保健委員会による



菅原さんがパフォーマンス向上のための食事について講話

発表が行われ、同校の人気メニューをランキング形式で紹介したほか、残食の量や残食の多いメニューについても共有。同委員会が主体となって取り組んでいる「残食ゼロウィーク」への意識を一つにした。

菅原さんは、パフォーマンスを向上させるための食事について「勉強や運動で成果を上げるためには『何を、どれくらい』食べるのかを知っておく必要がある」とし、炭水化物、脂質、

タンパク質、無機質、ビタミンで構成する五大栄養素のほか、各栄養素の適切な摂取量を説明した。

「お弁当づくりのコツ」では、3対2対1の割合で主食、主菜、副菜を詰めるように指導したほか、中身が崩れにくい詰め方を説明。「ご飯を傾斜ができるように詰めたら、主菜と副菜をご飯に立て掛けるようにして置いていき、カップなども活用してみると良い」などと助言した。

コンビニの商品によるバランスの良いメニュー例など

ども紹介し、野菜の摂取を忘れないよう促した。

菅原さんは「高校に進学するなどしたら、弁当を用意する機会が増える。作ってくれる人への感謝を忘れないでほしい。残さず食べることが感謝を伝える一つの方法」と、呼びかけていた。

保健委員長松田智成さん（2年）は「コンビニ商品もよく考えればバランスの良い食事がとれることを知った。講話を生かして食生活を見直し、勉強を頑張りたい」と話していた。